

一般社団法人 日本機械学会

関西学生会 機関誌

# 春秋 第57号



2026年3月

# 目 次

関西学生会2025年度活動総括	1
＜講演会＞	
デジタルフライングカーによる空クル動的シミュレーション	2
医療分野における機械工学の仕事	3
＜見学会＞	
工場見学～大阪関西万博～	4
＜恒例行事＞	
委員長校会及び学生交流会	5
シニア会と学生会との討論会 ～機械系技術者の生き甲斐～	6
令和7年度「メカライフの世界」展を終えて	7
学生のための企業技術発表会	8
各校便り	9
2024年度 関西学生会功労者	15
2024年度学生員卒業研究発表講演会 BPA受賞者	16
委員長挨拶	17
関西学生会を振り返って	18

# 関西学生会2025年度活動総括

日本機械学会関西支部学生会幹事長 宅間 正則（関西大学）

- ✓ 担当幹事 宅間 正則（関西大学）、谷垣 健一（大阪電気通信大学）、田中 展（兵庫県立大学）、東森 充（大阪大学 工）
- ✓ 役員校（2025年4月～2026年3月）  
委員長校：関西大学 委員長 田中 颯彪  
副委員長校：同志社大学、大阪工業大学  
書記校：兵庫県立大学、会計校：京都工芸繊維大学
- ✓ 幹事校  
大阪大学(工)、大阪大学(基礎工)、大阪工業大学、大阪産業大学、大阪公立大学、関西大学、京都大学、京都工芸繊維大学、近畿大学、神戸大学(工)、同志社大学、兵庫県立大学、龍谷大学
- ✓ 総会 上半期総会（4月26日） 関西大学 千里山キャンパス 18校出席  
下半期総会（10月11日） 関西大学 千里山キャンパス 22校出席
- ✓ 運営委員会 2025年4月～2026年3月 計8回開催 第3、4回はオンライン、他は対面  
○主要議題  
(1) 関西学生会の運営体制、担当校の調整  
(2) 「メカライフの世界」展 企画  
(3) 講演会・見学会 企画  
(4) 卒業研究発表講演会の運営、特別講演の依頼  
(5) 機関誌「春秋」第57号 編集、発行  
(6) 2025年度年次大会における「学生会委員長校会」への委員長出席  
(7) 関西支部シニア会との協力  
学生会とシニア会の交流会、親と子の理科工作教室（シニア会主催）に派遣  
(8) 支部主催行事への協力  
メカボケーション「協賛企業と学生の意見交換会」「学生のための企業技術発表会」等
- ✓ メカボケーション協賛企業と学生員の意見交換会  
開催日：6月14日 会場：関西大学 企業59社94名、学生86名参加
- ✓ 講演会（運営委員会と同時開催）  
第183回（7月26日）オンライン開催 講師：山川 勝史 教授（京都工芸繊維大学）  
第184回（9月13日）オンライン開催 講師：比嘉 昌 准教授（兵庫県立大学）
- ✓ 見学会 開催日：6月14日～10月13日 見学先：EXPO 2025 大阪国際万博 16名参加
- ✓ シニア会と学生会との交流会～機械系技術者の生き甲斐～ 開催日：10月11日 会場：関西大学  
32名参加（シニア会8名、学生会22名、教員2名）
- ✓ 「メカライフの世界」展 開催期間：11月15、16日  
バンドー神戸青少年科学館 2日間で829名来場
- ✓ メカボケーション「学生のための企業技術発表会」  
開催日：11月29日 会場：近畿大学  
出展企業 130社（250名）、学生 509名（22校）参加
- ✓ 卒業研究発表講演会 開催日：2026年3月15日 会場：大阪電気通信大学(学生会担当幹事校)  
発表件数：335件  
特別講演：「ガスタービン燃焼技術の研究開発 ～熱流体現象を捉える～」  
堀川 敦史 氏（川崎重工業株式会社 技術研究所）
- ✓ 関西学生会会員校（幹事校・委員長校：25校、オブザーバー校：2校）：  
大阪大学(工)、大阪大学(基礎工)、大阪工業大学、大阪産業大学、大阪公立大学、関西大学、京都大学、近畿大学、神戸大学(工)、同志社大学、兵庫県立大学、龍谷大学、京都工芸繊維大学、大阪電気通信大学、神戸大学(海事)、滋賀県立大学、摂南大学、立命館大学、和歌山大学、明石工業高等専門学校、大阪公立大学工業高等専門学校、神戸市立工業高等専門学校、奈良工業高等専門学校、舞鶴工業高等専門学校、和歌山工業高等専門学校  
(オブザーバー校) 京都先端科学大学、大和大学

## デジタルフライングカーによる空クル動的シミュレーション

講演者：京都工芸繊維大学 機械工学系

山川 勝史 教授（令和7年7月26日）

京都工芸繊維大学大学院 修士2年 山中 拓真

令和7年7月26日にZoomを利用したオンラインミーティングにて日本機械学会の2025年度第3回運営委員会が開催され、それに併せた第183回講演会にて京都工芸繊維大学機械工学系の山川勝史教授による講演が行われました。テーマは「デジタルフライングカーによる空クル動的シミュレーション」であり、教授が開発された手法を用いた、様々なシミュレーション結果や、空飛ぶクルマの通常動作に加え、非常時の状況下における飛行シミュレーションの結果についてお話いただきました。

山川教授は1996年3月に京都工芸繊維大学工芸科学研究科機械システム工学専攻を修了し、同年4月に東レ株式会社エンジニアリング技術開発センターに入社されました。2007年に京都工芸繊維大学機械システム工学専攻の准教授として着任され、2021年3月から同大学の教授に就任されています。また、2009年の新型インフルをきっかけに流体力学の専門家として、ウイルスを運ぶ空気の流れに着目されました。その後、2020年には新型コロナウイルスの感染対策として、気流制御により感染を低減させる「工学ワクチン」はメディアでも紹介され、感染抑制に貢献されました。現在は、移動する物体周りの高精度な流体シミュレーションを行っております。

表題のデジタルフライングカーとは、実機を用いた試験を行う前に機体の安全性や飛行試験をコンピュータ内で行う仮想空間そのものを指します。実験に準じたシミュレーションが可能になることで、実機試験の期間が短縮されます。その結果、開発スピードの向上、コストの削減、安全性の確保が実現できるそうです。

また、動的シミュレーションとはシミュレーション手法の一種です。これまでは、静止している人やモノなどの物体に対して一様流を与え、疑似的な運動の評価を行っていましたが、動的シミュレーションでは物体とその周囲の流体を同時に動かすことで、現実世界と同様の実験を行うことが可能だそうです。

基本的な流体シミュレーションの手順は、ま

ずCADデータなどで簡略化されたモデルを作成し、そのモデル上に計算格子点を作成します。次に、コンピュータを用いて流れを表す方程式から流れの状況を算出し、得られた数値データをもとに可視化処理を行います。本講演では、最後の手順にあたる、可視化処理された様々なCG映像などをもとに説明が行われました。

シミュレーションを行うことで、運動の最適解の導出や、実際に発生した事故の再現、実機試験では実行できないような極端な動きを機体にさせることなどが可能になります。具体的には、ドルフィンキックをするスイマーを使った最適な泳法の導出シミュレーション、飛行機の失速飛行シミュレーション、ウイルスの飛沫感染シミュレーションの結果などが紹介されました。また紙ヒコーキの飛行軌跡シミュレーションでは、実際に学内で紙ヒコーキを落下させ、シミュレーションの結果が正しいのかの検証も行われていたそうです。

最後に、空クルの研究内容について紹介がありました。空クルには複数のプロペラがついており、これらを複雑に使い分けることで動作が決定されます。機体の高度や速度などの目標値を設定し、コンピュータが各プロペラの回転数を決定することで、デジタルフライングカー内で目標値に到達しているかをシミュレーションし、データを取得していたそうです。他にも実際には行えないローターが停止した非常時の落下試験のシミュレーションがされていました。コンピュータを用いて数値計算することで、実際に試験を行うことなく落下の可能性を把握できるとのことです。

本講演を通じて、物体とその周囲の流体を同時に動かすことで、現実世界と同等の実験を可能にする動的シミュレーションと、実機試験を行うことなく物体の挙動を予測できるデジタルフライングカーの有用性と正確性について深く理解することができました。最後になりますが、お忙しい中、大変貴重で興味深いご講演をいただきました山川勝史教授に心より厚く御礼申し上げます。

## 医療分野における機械工学の仕事

講演者：兵庫県立大学 工学研究科 機械工学専攻  
比嘉 昌 准教授（令和7年9月13日）

兵庫県立大学大学院 修士1年 古志 利王

令和7年9月13日、Zoomを利用したオンライン形式により、日本機械学会2025年度第5回運営委員会が開催された。これに併せて第184回講演会が実施され、兵庫県立大学大学院工学研究科機械工学専攻の比嘉昌准教授によるご講演が行われた。

講演のテーマは「医療分野における機械工学の仕事」であり、人工関節をはじめとする臨床現場における機械工学の役割や、運動学・逆運動学に基づく筋骨格シミュレーションなどについて、幅広く紹介された。

比嘉准教授は、2003年3月に北海道大学大学院工学研究科システム情報工学専攻を修了後、2004年4月より東北大学先進医工学研究機構にて助手として勤務された。2006年に兵庫県立大学工学研究科へ着任し、2015年に同大学准教授に就任され、現在に至っている。これまで生体工学分野を中心に研究に従事され、複数の整形外科医師との共同研究を通じて、臨床応用を見据えた研究を展開されてきた。

研究の一例として、「人工関節による関節反力計測」に関する研究が紹介された。人工関節は、ソケットと呼ばれる受け手部分と、球状のヘッド部分を組み合わせて構成される。従来の人口肩関節では、人体構造に基づき、肩甲骨側にソケット、上腕側にヘッドを配置する設計が一般的であった。しかし、肩腱板に障害を有する患者では、三角筋のみで腕を挙上する必要があり、肩関節の外転が困難となる問題があった。

これに対し、近年では肩甲骨側にヘッド、上腕側にソケットを配置する「リバー型人工関節」が多く用いられている。リバー型人工関節では、三角筋のみで肩関節の外転が可能となり、適応範囲が広がる点が大きな利点であることが説明された。

比嘉准教授の研究では、このリバー型人工関節の術中における関節反力を計測する手法の

検討が行われている。ソケット部に三次元力測定器を組み込むことで、上腕骨に作用する力を計測可能な構造を開発された。2024年には旭川医科大学において献体を用いた実験も実施され、実用性の検証が進められている。今後は、体内への応用を見据えたデータ転送手法や耐久性の向上などが課題として挙げられた。

また、「筋骨格コンピュータモデルによる筋活動度推定」に関する研究についても紹介された。個々の筋肉が発揮する張力を直接計測することは困難であるため、一般的には筋骨格コンピュータソフトを用いた推定が行われている。しかし、従来手法では共収縮などの生体特有の現象が十分に考慮されておらず、実際の筋活動と乖離した結果を示す場合がある。

比嘉准教授は、こうした課題に着目し、実際の筋活動により近い推定を可能とする手法を検討されてきた。筋活動度とは、筋肉が最大発揮可能な張力に対して、実際にどの程度の張力を発揮しているかを割合で表した指標である。従来の筋骨格モデルでは、静的最適化により筋活動度が最小となる解が算出される傾向があった。これに対し、比嘉准教授が提案した手法では、筋活動度がより高い状態を推定可能とし、共収縮を考慮した解析を実現している。現在は、力の入れ具合が異なる条件下における筋活動度推定手法の高度化に取り組まれている。

本講演を通じて、臨床現場や生体を対象とした機械工学の専門性、すなわち生体工学分野の重要性について理解を深めることができた。生体工学は医療分野にとどまらず、理学療法やスポーツ、筋力トレーニングなど、身近な分野とも密接に関わっていることが示された。

最後に、ご多忙の中、貴重かつ大変興味深いご講演を賜りました比嘉昌准教授に、心より御礼申し上げます。

## 工場見学～大阪関西万博～

同志社大学大学院 修士1年 神谷 健瑠

令和7年度の工場見学会では、令和7年4月13日～10月13日にて開催された大阪・関西万博を見学させていただきました。見学会には学生会運営委員16名が参加しました。他にも対象期間外での参加やアルバイトとして万博に携わった運営委員もいました。

今年度の工場見学先の決定にあたり、事前に学生会運営委員へヒアリングを行ったところ、当時開催中であった大阪・関西万博を見学先として希望する声が大多数を占め、見学先として検討するに至りました。例年実施している企業訪問型の見学会とは異なる形式であったため、慎重に検討を重ねました。特に参加費については全額を機械学会にご負担いただき、万博見学を実現することができました。貴重な機会を提供していただいた日本機械学会関西支部には深く感謝申し上げます。

見学では、まず日本の伝統工芸を紹介するブースを訪れました。建物の奥には輪島塗を用いて制作された地球儀が展示されており、球体部分は木と漆によって形成され、大陸部分は金箔で表現されていました。さらに、地球儀の展示だけでなく、世界の有名都市を上空から見た作品も輪島塗で作られていました。



輪島塗大型地球儀

金箔特有の輝きによって、実際の夜景よりも光が鮮明で非常に美しかったことが印象的です。こうした伝統工芸品は一つ一つが丁寧に仕上げられており、機械加工では到達できない職人の繊細な技を感じ取ることができました。

続いて、「フューチャーライフ万博・未来の都市館」を訪れました。この館は、株式会社クボタ様や株式会社小松製作所様など、世界を代表する企業が集結し、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を体現した展示を行っていました。株式会社クボタの展示では、未来の食と農業をテーマに、汎用プラットフォームロボットが紹介されていました。このロボットは農業をはじめとするさまざまな作業を完全無人で行うことを想定しており、精密作業や手作業レベルの工程まで自動化できるとされています。農業従事者の減少が進む現代において、未来の食のためにどんな技術が必要かを学びました。

また、株式会社小松製作所の展示では、水陸両用ブルドーザーを発展させた水中施工ロボットによる未来の水中工事が提案されていました。このロボットは最新のICT機能、自動制御技術、遠隔操縦、電動駆動を備えており、最大50mの水深で作業が可能です。これにより河川やダムに堆積した土砂を安全に除去できるだけでなく、藻場や干潟の再生によって新たな漁場を創出し、豊かな海づくりに貢献できると紹介されており、技術の発展を感じました。



汎用プラットフォームロボット

## 委員長校会及び学生交流会

関西大学大学院 修士1年 田中 颯彪

日本機械学会では毎年9月に年次大会を開催しております。2025年度年次大会は9月7日～10日に北海道大学札幌キャンパスにおいて開催されました。今大会では未来の機械工学のあるべき姿を意識して「Be Ambitious!～次世代機械工学の開拓～」をキャッチフレーズとしました。「サステナビリティ」・「データ駆動型設計開発」・「異分野融合」をテーマに、学術講演発表、特別講演、企業・団体による技術展示、一般開放行事など多彩な行事が行われました。9月9日には、同会場にて行われた委員長校会及び「学生交流会」の運営に携わる為に、関西学生会から代表として1名参加しました。

委員長校会とは、全国8支部の学生会の委員長が出席し、各支部での活動報告や意見交換を行う場となっています。新型コロナウイルスの影響により2021年度まで数年間中止が続いていましたが、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、今年度も対面での開催となりました。本年度は、北海道支部、東北支部、関東支部、北陸信越支部、東海支部、関西支部、中国四国支部、九州支部から各1名、計8名の学生が参加しました。全国8支部の委員長が自己紹介・研究内容・各学生会の活動内容について発表しました。関西支部からは、運営委員会や学生と企業の意見交換を目的としたメカボケーション協賛企業と関西学生会との意見交換会、大学・企業の方々を招いて実施していただいている講演会、親と子の理科工作教室の運営に協力する活動や大阪・関西万博への見学会、シニア会と学生会との交流会、「メカライフの世界」展および卒業研究発表講演会など、様々な行事について、概要と今年度の実施状況・予定について報告しました。委員長校会を通じて、関西学生会は他支部と比べて学生主催の行事が多く、活動頻度も高く、きわめて積極的に活動していることが確認できました。

全国の他支部では、北海道支部・中国四国支部・九州支部などのように地理的な制約により、イベントや運営委員会のために各委員校が一カ所に集まることが難しく、対面での運営委

員会は年1回のみで、オンラインでの実施が中心となっています。関東支部では大学数の多さから参加校に制約があるのに対し、関西支部は立地条件や活動環境に恵まれており、参加校を限定せず活動できる点が特徴的でした。さらに、関西学生会では毎年1回、バンドー神戸青少年科学館の特別展示ブースをお借りして「メカライフの世界」展を開催しています。一方、北海道支部や中国四国支部では、大学や高専の学園祭を活用して同展示を複数回開催していること、また関東支部では工場見学を毎年2回実施していることは、新鮮で非常に興味深いものでした。

委員長校会の終了後には、企業若手技術者によるショートプレゼンが行われ、その後、意見交換会を含む立食形式の懇談会が開催されました。各支部の委員長が中心となり、学生交流会の運営に協力しました。「技術者とは」「社会人の生活」「最近の就職状況」「女性技術者の日常」などについて、他校の学生や企業の若手技術者、人事担当者の方々から直接お話を伺うことができ、非常に有意義な会となりました。

最後になりますが、今回の委員長校会および学生交流会の開催にあたり、学生会幹事の皆様、ならびに機械学会事務局の北沢様には多大なるご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。さらに、会場を提供してくださった北海道大学様及び、「学生交流会」に参加していただきました多くの企業の皆様に、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



## シニア会と学生会との討論会 ～機械系技術者の生き甲斐～

関西大学大学院 修士1年 田中 颯彪

令和7年10月11日、関西大学千里山キャンパスにて第19回シニア会と学生会との交流会が開催されました。学生会からは学生委員が22名、教員2名、シニア会からは8名の方にご参加頂き、合計32名で行われました。今年度の交流会は「シニア会と学生会との討論会 ～機械系技術者の生き甲斐～」という題目の下、シニア会と学生会のそれぞれから、立場や経験に基づく提言、およびグループ別自由討論会、懇親会の二部構成で行われました。以下にその様子を報告いたします。

開会に当たり、シニア会会長、谷川雅之様よりご挨拶を頂きました。続く基調講演ではシニア会会員の齊藤了文様より「哲学的技術論と設計」と題し、法学や心理学的な観点で学生さんが社会に出たときにどう対処するかについて講演して頂きました。この講演では、NHKで放送中の「魔改造の夜」を例題に、各社が6週間という短期間で与えられたお題をカタチにしてタイムを競う番組を取り上げ、設計思想や不具合の対策などの違いから各設計者やリーダーの哲学的見地からどう考えるかをお聞かせくださいました。ものづくりをする上で、法律や顧客の要望等のあらゆる側面を考える必要があることを実感するとともに、私も機械系の立場から解決に貢献したいと強く考えました。

次に行われたシニア会メンバーによる自己紹介を兼ねた提言では、シニア会の田中正夫様、有本享三様、石原国彦様より皆様の経験に基づく、機械系技術者の生き甲斐について提言を行って頂きました。人とのつながりの大切さや機械技術者の生きがいを感じた経緯について、実体験や意見を交えながら話し頂き、これから社会に出て活躍していく学生にとっても非常に有意義なものとなったと感じました。

続いて、学生からの提言と題して、学生員より今後の大学生活や研究活動を通じて、社会を担う技術者としての考えを発表いたしました。

休憩を挟んだ後にはそれぞれが積極的に意見の交流が出来るように、4つのグループに分かれてグループ別自由討論会、懇親会を行い、総括として各グループの代表学生から討論内容の報告を行いました。最後の総括では、各グルー

プで活発に討論が行われた事が報告されました。

ここでは、グループでの自由討論会、懇親会の様子を簡単に報告いたします。グループでは、シニア会の方が2名、代表学生1名、学生員5名が輪をつくるように並び、簡単な自己紹介から始まり、その後食事をとりながら自由な雰囲気での交流が盛んに行われました。若い間に経験すべきことや、機械技術者としてどのような能力が必要なのかをお話しして頂いたことは大変参考になりました。また、自身の成果が社会の製品に繋がらない場合や研究以外の業務に追われる中で、どの様な時にやりがいを感じたかを長年機械技術者として勤めてきたご経験から様々な意見を拝聴することができました。私も大学院生として、今後の取り組み方や社会に出てからどのような使命感を持つかということを考えながら、大学院生活を歩みたいと感じました。

最後になりますが、社会で活躍し、多くの経験をしてこられたシニア会の方々にお話し頂き、質問させて頂ける機会は学生にとって貴重な学びとなりました。今回のような貴重な機会を設けて頂いたシニア会の皆様、私たち学生をまとめて下さっている幹事の先生方に厚く御礼申し上げます。



シニア会と学生会との討論会の様子



全体写真

## 令和7年度「メカライフの世界」展を終えて

大阪工業大学大学院 修士2年 塩谷 智祐

一般社団法人日本機械学会関西学生会では毎年、「メカライフの世界」展というイベントを企画しています。「メカライフの世界」展とは、機械工学の面白さを展示や工作を通じて子どもたちに体感してもらい、ものづくりに興味をもってもらうことを目的としています。

この「メカライフの世界」展は、例年11月中旬にバンドー神戸青少年科学館にて開催しており、今年度も例年にならって11月15日、16日にバンドー青少年科学館にて開催をいたしました。私たちは、このイベントの目的である子供たちに実際に様々な体験をしてもらうことで機械工学の面白さを感じてもらえるような展示・工作の準備および運営を行いました。4月からイベントの企画が始まり、関西学生会の委員校・幹事校の方々に役割を分担しました。5月から本格的に展示物・工作物の準備を開始し、7月には各校の出展内容を学生会内で共有するための発表の場を設け、子どもたちにより良いものを提供できるよう討論を交わしました。また、展示や工作の準備と並行してポスターやホームページの作成などの広報活動も行いました。会場としてお世話になっているバンドー神戸青少年科学館様のホームページや、かがくかんNEWS夏号への掲載などしてメカライフの広報活動をさせていただきました。

今年度は親子で見て作って楽しめるような展示・工作ブースを15種類用意しました。どのブースも親子で機械工学の面白さを学べるような内容となっており、例えば「渦の発生メカニズム」という展示ブースでは、視覚的な体験を通して、流体力学の世界を身近に感じることができました。ストローを用いて実際に手を動かしながらカルマン渦が生成されている様子を観察することで、流体の不思議さを体感することができました。また、「まわりながら宙に浮かぶ風船の輪」という工作ブースでは、円形につないだ風船にドライヤーの風を当て、風の流れや風により生じる力を体感することができた。上記のブースに限らず、各担当校が少しでも子供たちにわかりやすく、興味をもってもらえるよう

に様々な工夫を凝らして内容を考案していました。参加いただいた子どもたちやその親御さんからは、「楽しかった!」や「仕組みがわかった!」といったお声を多くいただき、各担当校の工夫のおかげでより良いイベントになったと感じています。

イベントの2日間の来場者は829人で、昨年度以上に多くの方に参加していただくことができました。特に「蒸気機関車の世界」や「カエルジャンプ」などのブースが子どもたちに人気があり、多くの方が集まっていました。参加者のアンケートでは、ほとんどの方に「説明が丁寧でわかりやすかった」、「また来たい」と回答していただき、イベントは成功したと思います。また、来場者の内、青少年科学館に来るまでイベントが開催されていることを知らなかったという方が半数以上を占めていました。それでも昨年度以上の方々に足を運んでいただけたのは、青少年科学館の1階で行った呼び込みが非常に効果的であったと感じています。また、イベントの開催にあたっていくつかの問題や改善点がありましたので、来年の担当者の方への引継ぎをしっかりと行い、来年はより良いイベントにしていきたいと考えています。

最後に、本イベントを開催するにあたり多大なるご協力をいただきましたバンドー神戸青少年科学館のスタッフの方々、学生会幹事の先生方、顧問・副顧問の先生方、日本機械学会関西支部様、そして学生会の皆様深く感謝申し上げます。



## 学生のための企業技術発表会

近畿大学大学院 修士1年 石原 鈴花

一般社団法人日本機械学会関西支部では、毎年機械系分野を専攻する学生向けの技術情報誌「MECHAVOCATION」発刊に付随する事業として、MECHAVOCATION協賛企業と関西地域の機械系学生・教員の三者を結ぶ交流行事「学生のための企業技術発表会」を開催してきました。本年度は2025年11月29日に近畿大学の東大阪キャンパスにて「MECHAVOCATION 2026 学生のための企業技術発表会」が開催されました。

「学生のための企業技術発表会」は、協賛企業の方々から関西地区の、大学、短期大学、高等専門学校に在籍する機械系学生に向けて、企業紹介を交えながら企業が持つ独自技術や特徴的技術、技術者の具体的な仕事内容などを紹介していただくことで、企業の持つ技術の理解と機械工学を学ぶことへのモチベーションを高め、将来の進路決定の一助となることを目的としています。

今回で19回目となるこの発表会では技術情報誌「MECHAVOCATION 2026」の協賛企業から130の企業にご参加いただきました。また、大

学、短期大学、高等専門学校などに在籍する多くの学生と先生方にご参加いただきました。

各企業が事業内容を紹介するミニプレゼンテーションが全体に向けて行われ、その後、各企業のブースに分かれて個別の説明が実施されました。これらのプログラムは午前と午後の2回に分けて行われ、午後の部終了後には懇親会が催されました。

ミニプレゼンテーションでは、各企業が限られた時間の中で事業内容や社風、最先端技術について、学生にも理解しやすいよう工夫して紹介しており、短い時間ながらもそれぞれの企業の魅力が十分に伝わる内容となっていました。参加学生にとって初めて触れる分野や技術も多く、新しい発見や刺激を受ける良い機会になったのではないかと思います。プレゼンテーション終了後、参加学生は興味のある企業ブースに足を運び、担当者に直接質問をするなど、積極的な交流がみられました。各ブースでは、実際の製品や開発事業の紹介、キャリアパスに関する説明などが行われ、学生は企業ごとの特徴や強み、様々な技術について理解を深めることができたのではないかと思います。

また懇親会では、お寿司やお酒が振る舞われ、ブース説明会とは異なり、企業の方々や学生がリラックスした雰囲気の中でコミュニケーションを図る良い機会になりました。企業についてより深く理解するだけでなく、就職活動に関する相談や社会人として大切にすべき姿勢、仕事に対する考え方など、より実践的で貴重なお話を伺うことができました。

今回のイベントを通して、学生は多様な業界や技術に触れ、自分の将来像を具体的に描くきっかけを得たのではないかと思います。多くの参加者にとって、有意義な時間になったことを非常に喜ばしく思います。

最後になりましたが、ご参加いただいた企業の皆様、ご協力いただいた日本機械学会関西支部の皆様、学生会担当幹事の皆様、各大学の運営委員の皆様がこの場をお借りしまして、心より厚く御礼申し上げます。



MECHAVOCATION 2026  
学生のための  
企業技術発表会  
参加企業100社予定

事前登録制 当日まで登録可能  
参加費無料 詳しくはWebで

2025年11月29日(土) 10:00~18:30(予定)  
近畿大学 東大阪キャンパス11月ホール  
当日は、気軽な服装でご参加ください。  
※リクルートブース以外での郵送は無効！  
※午前・午後の一部は、参加費が異なります

近鉄大阪線「長瀬」駅下車 徒歩10分  
交通アクセス 近畿大学

本行事は、企業が持つ技術に関する情報の発信を目的とします。  
企業の独自技術や特徴的技術、期待する機械技術者像や機械技術者の具体的な仕事内容など、学生の皆さんがキャリア形成を考える上で有益な情報が得られます。

●企業のミニプレゼンテーション  
●ブース別セッション ●懇親会

主催：一般社団法人 日本機械学会 関西支部  
TEL: 06-6443-2073 E-mail: info@kansai.jsme.or.jp  
共催：近畿大学 理工学部・キャリアセンター

## 関西大学

関西大学の前身・関西法律学校は、関西初の法律学校として創立され、1922年の大学昇格を経て、現在では、システム理工・環境都市工・化学生命工学部の理工系3学部を始め、法・文・経済・商・社会・政策創造・外国語学部の10学部がある千里山キャンパス、総合情報学部のある高槻キャンパス、社会安全学部のある高槻ミューズキャンパス、人間健康学部のある堺キャンパスを擁し、理工系だけで約5千人、全体で約3万人の学生が在籍する総合大学に発展しました。さらに、データを通じた価値創出に対する社会的なニーズの高まりを受け、2025年4月に「ビジネスデータサイエンス学部」を新設し、それに伴い、吹田市・山田南に「吹田みらいキャンパス」を開設しました。また、2026年4月にはシステム理工学部「グリーンエレクトロニクス工学科」が設置される予定です。

関西大学は、「学の実化」を学是として掲げ、教育研究活動を展開しています。これは大学昇格時に「関西大学が目指すべき大学教育の方向性としては、『学理と実際とを調和』させながら実社会で有用な人材を養成することである」と当時の総理事が提唱したものです。この「学の実化」を実現するために、不確実性の高まる社会の中で困難を克服し未来を切り拓こうとする強い意志と、多様性を尊重し新たな価値を創造することができる力を有する人材を育成します。

さて、関西大学システム理工学部機械工学科は、IoTなどの情報社会への機械工学のさらなる進出と、その分野を担う多様な技術者の輩出を目指し、カリキュラムを大幅に見直すとともに、2026年4月から「機械サイエンスコース」と「機械フロンティアコース」のコース制が設置されます。これにより、「確かな技術と表現力、課題解決力を備えた人材」を育成しています。4年次には、10種類ある研究室のいずれかに配属され、研究活動に勤しみ、希望者は3年次後期から研究室に所属することもできます。卒業後は、機械系のみならず電気系、情報系、医療系などの様々な業種で研究・開発を行うエンジニアになることが期待されます。また、全学組織である関西大学先端科学技術推進機構は、4研究部門と5つの研究センターからなり、既存の大学内組織を越えた研究チームの形成と、先端的な理工学研究・開発を推進しています。

詳細を知りたい方は下記の関西大学のホームページをご覧ください。

ホームページ：

<http://www.kansai-u.ac.jp/>

## 同志社大学

同志社大学は、1875年に新島襄によって創設された私塾「同志社英学校」を源流とし、1920年に同志社大学として設立されました。現在では14学部・16研究科を有する総合大学へと発展しています。

同志社大学には2つの校地があり、京都市中心部に位置する今出川校地は同志社大学誕生の地であり、150年にわたる歴史そのものを体現しています。一方、京都府南部の京田辺校地は、緑豊かな自然に囲まれた広大な79万㎡の敷地に最新の施設・設備を備えたキャンパスです。

同志社大学理工学部の教育の基本理念は「人間のための科学技術」に象徴されています。この理念を実現するため、理工学部では次の5つの目的を掲げ、教育・研究活動を行っています。1. 科学の進歩に寄与するとともに、その成果を活用して世界平和の構築と人々の幸福に貢献できる人物の育成。2. 科学と工学の基礎および応用理論を十分に修得した人物の育成。3. 狭い学問分野にとらわれず、修得した知識を応用し、創造性を発揮できる人物の育成。4. 理工学における柱石となる心構えの涵養。5. 知徳を兼ね備え、社会に貢献し得る能力を有する人物の育成。

理工学部では、1年次から各分野の基礎となる科目を設置し、各学年に演習科目や実験科目を配置することで、基礎理論を十分に理解できるよう配慮したカリキュラムを導入しています。これにより卒業生の基礎学力を確保しています。

最終年次に履修する卒業論文では、先端的な研究課題に取り組むことで、理工学に必要なものの見方、問題発見能力、そしてその解決方法を体得することを目指しています。

同志社大学理工学部・理工学研究科は、さまざまな技術革新に対応し、さらには自ら新たな技術革新を創出できる人物の育成を続けており、社会から高い評価を受けています。総合大学としての特色を生かし、幅広い分野を学ぶことができる教育環境のもと、確かな基礎力を養い応用へと発展させる力を身につけることができる教育・研究体制の充実に努めています。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

大学HP：<https://www.doshisha.ac.jp>

学科HP：<https://se.doshisha.ac.jp/>

## 兵庫県立大学

兵庫県立大学は、平成16年4月に神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学の県立3大学が統合して開学しました。統合による相乗効果と総合大学ならではの強みを活かし、異分野間の融合を重視した教育・研究を行なっています。独創的・先駆的な研究を推進して「新しい知の創造」に全力を尽くすとともに、新しい時代に対応できる専門能力と幅広い教養を備えています。本学では、人間性豊かな人材を育成し、地域の発展や日本の繁栄、さらには世界と人類の幸福に貢献できる大学を目指しています。

本学は、経済学部、経営学部、工学部、理学部、環境人間学部、看護学部の6つの学部と14の大学院研究科が設置されており、公立大学としては全国有数の総合大学です。キャンパスおよび研究所は神戸・姫路などを含む16か所に分かれており、県内各地に点在しています。工学部では、「機械・材料工学科」、「電気電子情報工学科」、「応用科学工学科」の3学科で構成されており、各学科の中に2専門コースが設けられています。本学部は、「ものづくり」を基盤とした教育・研究を通して、人類の利益と安全に貢献できる技術者を育成するとともに、先導的・創造的な工学研究の発信基地として、我が国と兵庫県の文化向上と産業発展に寄与しています。また、本学が公立大学法人である特徴を生かし、地域と連携した教育活動を全県規模で展開しています。我々、機械・材料工学科では、1学年約130名の学生が在籍しています。初年次には力学を中心とした工学基礎科目と充実した実験・実習によって「ものづくり」の基礎を学びます。2年次以降は「機械工学コース」と「材料工学コース」から自らの興味と適性に応じたコースを選択し、それぞれの分野の高度な専門科目を修得していきます。これらの教育を通して、課題を発見して解決する能力を身につけた国際的に通用するエンジニアを育成していきます。本学の詳しい情報は以下のホームページをご参照ください。

<https://www.u-hyogo.ac.jp>

## 大阪大学 基礎工学部

大阪大学は緒方洪庵が1838年に設立した私塾である「適塾」を源流とし、1931年に大阪帝国大学として創立されました。設立時は医学部と理学部の2学部のみで構成されていましたが、1933年の旧制大阪工業大学との統合、近年では2007年の大阪外国語大学との統合により、現在では11学部、16研究科、6附置研究所を有する日本でも有数の研究型総合大学に成長しています。

キャンパスは豊中、吹田、箕面の3地区に位置しています。豊中キャンパスには多くの文系学部が集まり、1年時の共通教育も行われています。また、多くの部活動やサークル活動が行われるなど学生生活の場の中心としても機能しています。一方吹田キャンパスには工学部、医学部を始めとする多くの理系学部が存在しています。敷地面積は約100万㎡と3キャンパスの中で最大であり、多くの研究施設が設置されています。そして、外国語学部を擁する箕面キャンパスは2021年4月に新御堂筋沿いへ移転し、市の文化施設との共同利用も行う都市型キャンパスに生まれ変わります。

本学の工学系学部の大きな特徴として、工学部と基礎工学部のふたつの学部が設置されていることがあります。工学部は吹田キャンパスに位置しており、企業との共同研究講座と協働研究所が設置しているなど、「産学連携」を旗色とし新しい価値を創出する「イノベーション」の基礎を養成することを掲げています。そして実学を重視し、より豊かな社会生活を実現することを目指しています。現在は5学科13科目を有し、毎年約800人の入学者を迎える日本有数の工学部となっています。一方基礎工学部は、豊中キャンパスに位置しており、基礎工学部創設時に掲げられた「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発それにより人類の真の文化を創造する学部」という理念のもと、理学と工学の双方を兼ね備えた人材の育成とそれらの融合研究を推進しています。現在は4学科10コースを有し、既成の学問分野の枠にとらわれない柔軟な思考力を育成しています。いずれの学部においても、大半の学生は卒業後大学院に進学し、将来の社会に貢献するために必要な素養を身につけています。

詳しくは下記のホームページをご参照ください。

<http://www.osaka-u.ac.jp>

## 大阪産業大学

大阪産業大学は、昭和3年(1928年)に創立された大阪鉄道学校にはじまり、建学の精神である「偉大なる平凡人たれ」は、「名誉や地位も高い人間になるなどの功利的主義、出世主義的な考え方ではなく、人間社会に貢献することを生きがいとし、それに喜びを感じられること、それが最も偉大な人間だ」と考えられることであり、本学では、教育・研究の諸活動を通じ、そのような精神を養っていきます。

大阪府と奈良県の県境に位置し、7学部9学科を擁する総合大学です。教育拠点であるとともに知の創造拠点として、研究の活性化と研究成果から生じる知的財産の創造・保護・活用に至る「知的創造サイクル」に力を注いでいます。地域との連携を重視し、工学部及びデザイン工学部を中心とした「技術相談」と合わせて、社文系学部への「経営相談」に取り組んでいます。さらに、21世紀型新産業といわれる「高齢化、社会福祉、運動健康」といったスポーツ健康に係る産学連携活動についても積極的に取り組んでいます。システム工学科では、プログラミングやAIなどの情報工学と制御工学などの情報技術である「システム工学」を学ぶことで、ハードウェアがどのように用いられ、機能し制御するのか、その仕組みを理解することができます。「機械システム」「機械デザイン」「自動車工学」「鉄道工学」「交通システム」「電気電子工学」「情報電子工学」の7コースでハードウェアにおける基本となる専門性を身に付けることができます。各テーマに特化したテーマで卒業論文に取り組み、3年次までに得られた様々な分野の専門知識・技能を組み合わせることで、社会貢献できるエンジニアとして活躍できるようになります。

詳細は大阪産業大学のホームページをご覧ください。

大阪産業大学：

<https://www.osaka-sandai.ac.jp/>

## 摂南大学

摂南大学は1962年に設立された大阪工業高等専門学校を改組し、1975年に開学しました。開学当初から総合大学を目指して工学部(現・理工学部)からその歩みをはじめ、1982年に国際言語文化学部(現・外国語学部、国際学部)と経営情報学部(現・経営学部)を開設、翌年には薬学部を増設しました。現在は寝屋川キャンパスに理工・法・経営・経済・外国語学部・国際学部、枚方キャンパスに薬・看護学部があり、2020年より枚方キャンパスに農学部を開設、また、2023年4月より現代社会学部も新設され9学部17学科6研究科、約1万人が学ぶ総合大学に発展しました。『世のため、人のため、地域のために、理論に裏付けられた実戦的技術を持ち、現場で活躍できる専門職業人を育成する』ことを建学の精に置き、「地域で学んだ知を世界に展開する」「世界で学んだ知を地域に還元する」ことができる人成し、持続可能な社会の実現に貢献できる大学を目指しています。さらに、自ら課題を発見し、解決することができる知的専門職業人の育成を実践ためのPBLが学部学科間の垣根を超えて行われています。

本学では初年度から一貫した少人数制のゼミ教育を実施しており、基礎・専門・実習科目において学びやすい環境が整っています。理工学部は、五感を活用して科学の法則や基礎原理を体感できる授業を展開しており、社会の発展に貢献できる技術者・教育者の育成を目指し、学びの「楽しさ」と出会える多くの実践の場を設けています。機械工学科では、2年次から品質や生産性、コストも考えた生産・加工技術を身につける「機械生産コース」と、JABEE認定のカリキュラムで高度な機械エンジニアを育成する「機械工学総合コース」の二つの特徴的なコースに分かれて学びます。また、デザインや色彩について学ぶインダストリアルデザイン系科目や東南アジアにある日系企業での「ものづくり海外インターンシップ」など、特色ある講義や実習が開講されています。関連機関に基礎理工学機構や融合科学研究所、テクノセンター、理工学部CAD演習室を擁し、初年次から万全のサポート体制が整っています。

詳細は摂南大学のホームページをご覧ください。

<https://www.setsunan.ac.jp/>

## 和歌山大学

和歌山大学は和歌山県の北端にある閑静な住宅地にある大学です。大阪府との県境がすぐ近くのため、都市部からのアクセスは容易です。最寄り駅である南海本線和歌山大学前（ふじと台）駅にはイオンモールが隣接しているため大学への通学の途中に買い物ができるのも非常に便利です。

和歌山大学は1949年5月に学芸学部（現・教育学部）・経済学部の2学部からなる新制大学として設置されました。1995年（平成7年）システム工学部、2008年（平成20年）4月に観光学部を開設し、4学部からなる和歌山県下唯一の国立大学法人として活動しています。歴史ある教育学部、経済学部はもちろんのこと、国公立大学の中では珍しい観光学部も、地元和歌山の企業や行政機関と協力しながら和歌山の発展に貢献しています。

システム工学部は「複数の領域の知識を身につけ、その知識を自ら活用することで、創造性を発揮し、様々な人とのコミュニケーションを通して、課題の探求と問題解決を行い、自然や人間社会に貢献できる専門的技術者・研究者を養成する」という理念に即して、専門分野における十分な見識、分野を横断する領域の知識を身につけ、その知識を自ら活用することにより、広い視野から時代の要請に応え、課題解決のできる研究者や技術者を養成することを目指しています。これまでは、10のメジャー（教育・研究領域）で1つの学科（システム工学科）が構成されていましたが、2023年からは3領域8メジャー制による教育体制に変わり、これまでの2つのメジャーを選んで複合的に専門科目を履修することを維持しつつ、より高度な専門知識と技術を実践的に習得できるよう博士前期課程の2年間までシームレスに学ぶことができる6年制も選択可能になりました。1年次は学科共通で基礎科目を履修します。2年次初めに第1メジャーへの配属が決まり、希望コースによって第2メジャーを決定します。2年次以降は第1・第2メジャーの専門科目を履修しますが、その他のメジャーの専門科目を履修することも可能です。3年次に第1メジャーの研究室に配属され、卒業研究を通して未知の分野に挑戦し、新しいアイデアを生み出す創造的能力を高めます。

大学のホームページをぜひご覧ください。  
<https://www.wakayama-u.ac.jp/sys/>

## 大阪電気通信大学

大阪電気通信大学は、1961年に大学を設立し、電子工学科を設け、いち早くエレクトロニクスの教育と研究を開始し、以後ハイテクノロジーの諸分野の教育・研究を展開してきました。現在、大学は4学部（工学部、情報通信工学部、医療健康科学部、総合情報学部）で構成され、実学を重視した教育を行っています。また大学院では3研究科を設置し、高等教育機関としての一貫した体制を有しています。

実学重視の教育として、各学部・学科においては、1人ひとりの主体的な学びを支援するために実践的な実学教育のカリキュラム体系を構築しています。その学修課程を4つの段階に分類して大学の英文名の頭文字からOECUステップと名付けています。OECUはそれぞれときめき（Opportunity）、実践（Experience）、感動（Capability）、発展（Utility）の4ステップとなっており、このステップを軸にした教育で、1人ひとりの可能性を伸ばしていきます。

電子機械工学科では、1年次に「プロジェクト活動スキル入門」「メカトロニクス基礎演習」の科目や研究室訪問によって、電子機械工学を学ぶ動機を自覚するとともに、「数学」「力学」「物理学」等の基礎学力の素養向上をめざします。さらに、「基礎製図」「基礎電気回路／基礎電子回路」「プログラミング基礎演習」等の専門分野の基礎科目により、2年次以降で学ぶ専門科目を理解する準備をします。2、3年次には、「メカトロニクス」の理解に必要な4分野：①機械 ②電気・電子 ③計測・制御 ④情報・コンピュータの専門知識を幅広く学修。そして実習科目により、授業で学んだことを深く身につけます。最後に4年次には、「卒業研究」を通じ、自ら考えて問題を解決する能力を養うとともに、専門知識を柔軟に活用する発想力を養います。また、指導教員とのコミュニケーションを通して深い専門知識と広い世界観を養うことによって、グローバルで高度な技術社会に対応できる人材への成長をめざします。

詳細は、大阪電気通信大学ホームページをご覧ください。

<https://www.osakac.ac.jp/>

## 滋賀県立大学

滋賀県立大学は、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の4学部で構成されています。「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、「環境」と「人間」をキーワードに「人が育つ」大学として、1995年に設立されました。琵琶湖に隣接した豊かな自然環境のなかで、近江の歴史や多様な文化・産業を背景に、「地域に根ざし、地域に学ぶ」実践的教育が展開されています。

工学部は、「機械システム工学科」、「材料化学科」、「電子システム工学科」の3学科で構成されています。21世紀の「ものづくり」において、人と自然環境に調和した新しい科学技術の創造と豊かな社会の構築を目指した国際的に活躍できる人材の育成を行うとともに、先進的な研究を通じて人類の発展に貢献し、我が国及び地域の文化と産業の拠点としての役割を果たすことを理念とし、教育、研究、社会貢献がなされています。

われわれ機械システム工学科は、機械工学の基礎的なセンスを備え、高機能な機械を設計・開発でき、柔軟な発想能力の備えた技術者・研究者を目指して、機械工学の四力学に加え、制御系及び情報系科目といった幅広い科目を学んでいきます。また、構想から設計、製造に至るまでのものづくりの流れを体系的に学び、自己表現能力や文章作成能力等を養うために、多くの実験、実習を取り入れたカリキュラムも用意されています。

本学科は6つの研究分野で構成されています。エネルギーと動力分野では、持続可能なエネルギー技術の研究、流体工学分野では、人と環境に役立つ新たな流体技術の研究、材料力学分野では、高度な診断と治療で機械の長寿命化を目指す研究、機械ダイナミクス分野は、振動と音から社会と調和する機械の研究、メカトロニクス分野では、ロボットの高度化に関する制御技術や新たな機構の研究、生産システム分野では、環境と人間にやさしい未来志向のものづくりの研究が行われています。

本学ならびに、本学機械システム工学科の詳細な情報は、ウェブページをご参照ください。

<https://www.usp.ac.jp/> (大学webページ)

<https://www.mech.usp.ac.jp/>

(学科webページ)

## 国立明石工業高等専門学校

明石工業高等専門学校は兵庫県明石市に位置する国立高等専門学校で、1962年に創立されました。本校は「豊かな人間性・柔軟な問題解決能力・実践的な技術力・豊かな国際性と指導力」を教育目標とし、幅広い専門知識と実践的スキルを兼ね備えた人材を育成しています。

本校には、機械工学科、電気情報工学科、都市システム工学科、建築学科の4つの学科があり、いずれも理論と実践を重視した教育を展開しています。また、2年間の専攻科では、学士レベルの高度な専門知識を修得することができます。

機械工学科では、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学などの基礎学問を学ぶとともに、設計、製造、ロボット工学などの実践的な技術を習得します。1年次には「機械工作実習」や「設計製図」を通じて基礎力を養い、2～4年次では応用科目や、実験、実習を通じて技術の応用力を育成します。5年次には、卒業研究を通じて専門性を深めるとともに、課題発見・解決能力を磨きます。専攻科では機械・電子システム専攻科となり、電気情報工学科と合併し、両分野を習得できます。また、本科の卒業研究より、さらに専門に特化した各工学概論や特別研究を通じて、さらなる専門性を追求できます。

本校では、2020年頃から交換留学生、長期留学生、短期団体留学生を数多く受け入れ、約15%が留学生のクラスが実現しました。加えて、去年度より英語ネイティブ教員の採用を積極的に開始し、各学年、各学科に1名以上を確保し、英語の授業の他に英語を用いた工学授業が開始されました。さらに、多彩な留学プログラムを提供するなど、グローバルな人材育成にも力を入れています。

また、本校中学年では、Co+Workという授業を通じて、異なる学年や学科の学生が集まり、現代社会や地域、さらには学内の課題に取り組む機会を提供しています。この授業では、学外や周辺地域と連携したプロジェクトを行うことで、実践的な学びが可能となり、学生の課題解決力と協働スキルを育成しています。

詳しくは、国立明石工業高等専門学校のホームページをご覧ください。

<https://www.akashi.ac.jp/>

## 神戸市立工業高等専門学校

神戸市立工業高等専門学校（神戸高専）は、昭和38年（1963年）に設立された5年一貫教育の高等教育機関です。機械工学科、電気工学科、電子工学科、応用化学科、都市工学科の5学科で編成されており、卒業生は性別によらず各分野で活躍しており、創立以来、「ものづくり」を支える多くの実践的な技術者を育成し、世の中に送り出してきました。

神戸高専では、「人間性豊かな教育」、「実践的で創造性豊かな技術者教育」、「国際性をはぐくむ教育」を教育方針の三本柱として人材育成を進めてきています。各分野の専門知識・技術を着実に習得することに加えて、PBL教育・アントレプレナーシップ教育・情報教育プログラムの導入など様々な取り組みを通じて創造的思考力を兼ね備えた高度な実践的技術者を育成し、時代・社会の要請に応じていきます。

本校の授業には、一般教養科目（数学や英語等）と専門科目があり、低学年では一般教養科目、高学年になると専門科目が多くなるくさび型カリキュラムとしており、5年間で大学工学部とほぼ同程度の専門知識や技術を身につけることができます。また、高校から大学というコースに比べ途中の入学試験がありませんから、受験勉強にわずらわされずに勉強ができます。

実践的な技術の習得にも重点を置いており、3Dプリンタや3Dスキャナ、レーザー加工機、大型せん断装置、波長可変レーザー装置等の最新機器を取り入れ、実験実習を行います。本科の後の2年間の専攻科では、各分野における、最新の専門知識を学び、研究開発能力、問題解決力など高度な技術力を習得します。

来年度からは、システム情報工学科、知能ロボット工学科、機械システム工学科、電気電子デザイン工学科、環境応用化学科、都市デザイン工学科へと学科編成が変わります。神戸高専へのアクセスや各学科についての詳細及び進学・就職実績などについて知りたい方は下記の神戸市立工業高等専門学校ホームページをご覧ください。

<https://www.kobe-kosen.ac.jp/>

## 奈良工業高等専門学校

奈良工業高等専門学校（奈良高専）は、1964年に設立された、技術者育成を目的とした高等教育機関です。奈良県大和郡山市に位置し、美しい自然と歴史ある環境に囲まれながら、未来を担う高度な技術者を育成しています。本校の教育理念は、「創造の意欲」、「幅広い視野」、「自律と友愛」の3つの標語で表しています。「創造の意欲」は、技術者としての未知の新しい課題に積極的に取り組み、それを実現できる能力を育成することであり、「幅広い視野」は、自己の専門分野の知識のみならず幅広い知識に基づいて物事を多面的に考察し、判断できる能力を育成すること、そして「自律と友愛」は、自己を冷静に見つめ、他人を理解しようとする姿勢を身に付けさせるということです。

本校の学部構成は、機械工学科、電気工学科、電子制御工学科、情報工学科、物質化学工学科の5学科で構成されており、各分野における専門的知識と技術を学べます。高専は高校と短大を合わせただけの学校ではなく、4年制の工学系大学とならぶ独自の教育制度による学校です。5年間を通して一般科目と専門科目が無理なく組み合わせられ、一貫した教育が行なわれています。学生たちは5年間の一貫教育を通じて、基礎から応用まで幅広い知識を修得し、卒業後は大学編入、大学院・専攻科進学、または企業就職など多岐にわたる進路で活躍しています。

奈良高専の教育の特徴は、理論だけでなく実践を重視したカリキュラムにあります。1年次から実験・実習を取り入れた授業を通じて、技術者に必要な実践力を養成しています。また、全国高専ロボットコンテストやプロコン（プログラミングコンテスト）などの大会への参加を奨励しており、多くの学生が優秀な成績を収めています。

さらに、国際交流活動にも力を入れており、海外留学や外国の高専との共同研究など、グローバルな視点を持つ技術者の育成も目指しています。充実したキャンパスライフとともに、技術と人間力を兼ね備えた次世代のリーダーを育てる奈良高専は、技術の未来を切り拓く場所です。

奈良高専の詳細を知りたい方は、下記の奈良高専ホームページをご覧ください。

<https://www.nara-k.ac.jp/>

## 2024年度 関西学生会功労者

### ○支部長賞（役員校）

11名

学校名	運営委員	皆勤賞
大阪公立大学 (大阪府立大学)	坪本 颯史	
	内藤 大智	
	松井 雄吾	
大阪産業大学	岡 廉一郎	
	高桑 嘉浩	
神戸大学 (大学院工学研究科)	芥川 侑真	
	錦見 蒼汰	
関西大学	市川 裕翔	
	仁木 完	○
大阪大学 (大学院基礎工学研究科)	池田 志成	
	上村 和輝	

### ○学生会貢献賞（幹事校，委員校）

17名

学校名	運営委員	皆勤賞
大阪大学(大学院工学研究科)	池田 雅文	
大阪工業大学	東野 和輝	
	藤定 悠太	
近畿大学	澤井 謙斗	
	中堂 優太	
同志社大学	山本 峻也	
龍谷大学	小林 怜也	
	村上 悠	
大阪電気通信大学	近棟 直人	○
	仲川 友稀	○
摂南大学	豊岡 浩太	
立命館大学	増田 遥斗	
和歌山大学	角 昇磨	
神戸市立工業高等専門学校	岡本 莉空	
奈良工業高等専門学校	坂倉 哲史	
	前田 和輝	
	小山 遼	

**日本機械学会 関西学生会  
2024年度学生員卒業研究発表講演会 BPA受賞者一覧**

2025年3月18日学生員卒業研究発表講演会が大阪公立大学において対面形式で開催されました。今回は35件がBPA（Best Presentation Award）を受賞しました。

BPA受賞者は、1. 発表構成, 2. 発表態度, 3. 表現手法, 4. 質疑応答, の4つの評価項目に対し、座長及びコメンテータの審査に基づき選出されました。2024年度の受賞者は以下の通りです。

【午前の部】

【午後の部】

第1室	小林 要佑 (大阪工業大学)	岸田 拓也 (兵庫県立大学)
第2室	中村 理人 (大阪工業大学)	小野山夏生 (近畿大学)
第3室	植原慎之助 (近畿大学)	佐藤 優奈 (大阪大学)
第4室	寺田 洋大 (奈良工業高等専門学校)	柳田 悠滋 (大阪府立大学)
第5室	丸橋 文 (京都工芸繊維大学)	田中 駿佑 (龍谷大学)
第6室	神谷 健瑠 (同志社大学)	杉本 誠也 (大阪工業大学)
第7室	熊代 直人 (大阪市立大学)	松本和佳奈 (大阪大学)
第8室	外村慎太郎 (近畿大学)	内山 智貴 (京都工芸繊維大学)
第9室	亀山 愛 (同志社大学)	井田 隼人 (大阪市立大学)
第10室	曾我部成磨 (関西大学)	河野 真弥 (京都大学)
第11室	原 遼 (京都大学)	秋本 慶太 (兵庫県立大学)
第12室	彼末 侑也 (大阪大学)	石田 陸斗 (京都工芸繊維大学)
第13室	狭川 雅芳 (京都工芸繊維大学)	小櫻 慶 (京都工芸繊維大学)
第14室	松浪 功汰 (大阪公立大学)	小野 瑞生 (立命館大学)
第15室	米田 駿 (大阪大学)	佐伯宗一郎 (神戸大学)
第16室	片岡 瑞歩 (明石工業高等専門学校)	能勢弘太郎 (大阪大学)
第17室	奥山 勝太 (大阪工業大学)	橋本 拓実 (京都工芸繊維大学)
第18室	木澤 陸斗 (大阪府立大学)	

## 委員長挨拶

関西大学大学院 修士1年 田中 颯彪

今年度、関西学生会委員長を務めさせていただきました田中颯彪と申します。私は、研究室の教授から委員長の話を聞くまで、運営委員の活動を知りませんでした。教授から詳しく話を聞く中で、他校の学生と協力しながら主体的に活動を行っている団体だと知りました。大きな責任が伴う役割だと感じましたが、新たな環境で経験を得たいと考えていたため、就任を決意しました。

次期運営委員として参加した運営委員会・総会では、学生が主体となり運営している様子を目の当たりにしました。そのとき初めて、委員長校が会議を進行している姿を見ることができ、責任感が芽生えました。また、次期運営委員が初めて参加した運営委員会のため、自己紹介を求められましたが、緊張のあまり震えた声で話したことを覚えています。その後の卒業発表講演会では、講演者として、また次期運営委員として、活動の雰囲気をつかみながら発表や運営を行いました。

前年度の方が退任され引継ぎを受けた後、4月から委員長としての活動が始まりました。委員長校の役割は全体のマネジメントであり、具体的には各役員校と連携を取りながら業務を依頼し、議論および情報共有の場として運営委員会を開催することです。実際に委員長として初めての運営委員会を開催するにあたり、分からないことや不安なことが多くありましたが、同じ委員長のメンバーであった曾我部君や守田君と協力し準備を進めました。各校への通知、資料作成、運営委員会での議長の役割分担を行いました。全員で発表資料やメール文案の確認を行うことでミスをなくすように心がけました。顧問の先生である宅間先生とも何度も打ち合わせを行い、当日に向けて準備を整えました。運営委員会本番では、慣れていないながらも大きな失敗はなく、幹事の先生方をはじめ、運営委員の皆様のご協力もあり無事に乗り越えることができましたと感じています。

今年度も、講演会等の一部イベントを除いて1年を通してすべてのイベントを対面にて開催

することができました。

メカボケーション協賛企業と関西学生会との交流会では、就職活動につながる話だけではなく、その方が携わっている仕事内容からその魅力まで大変貴重な話を聞くことができました。大学の先生による講演会では、専門知識や技術について聞くことができました。シニア会と学生会との交流会では、提言内容をもとに将来への疑問や不安についてディスカッションを行いました。また、今年度は工場見学として大阪・関西万博を訪れました。各国の展示では、その国の現状や取り組みについて、企業の展示では、課題解決に向けた取り組みについて学ぶことができました。機械工学の視点からもいのち輝く未来社会について考える機会になったと感じています。そして、学生会が力を入れている大きなイベントの1つである「メカライフの世界」展では、子どもたちに機械工学に関する展示物を見学してもらったり、工作してもらったりすることで機械工学の面白さを伝えました。

関西学生会に携わった1年半の間、多くの方と出会い、協力して行事の企画や運営を進めて参りました。課題に感じたことは多くあり、もっと上手く立ち回れたのではないかと考えることもありました。しかし、活動を通して学ぶこともあり、成長を感じられました。今年度の成果や反省を次期委員に引継ぎ、より一層発展した活動を見届けることが、委員長としての最後の役目だと考えています。活気あふれる関西学生会の活動に、一人でも多くの方に興味を持っていただければ幸いです。

最後になりますが、拙い委員長にも関わらず、今年度、関西学生会の活動を支えてくださった学生会担当幹事および各大学の顧問の先生方、関西支部事務局の皆様、シニア会の皆様、運営委員の皆様、そして、多くの関係者の皆様にご場を借りて深く感謝申し上げます。今年度をもって、委員長を退任しますが、次年度以降も関西学生会がますます発展することを心よりお祈り申し上げます。

## 関西学生会を振り返って

学生会幹事長（関西大学 教授） 宅間 正則

101期の委員長校と学生会幹事長は関西大学と私が担当することになったので、100期の学生会幹事長の新谷先生（大阪公立大）から種々の留意点を伺っていました。しかし、「聞く」「観る」と「やる」とでは大きく異なって戸惑いばかりでしたが、委員長校をはじめとする役員校および幹事校・委員校の運営委員、顧問・副顧問と学生会担当幹事の先生方および事務局の方々に助けて頂き、無事に任期を終えられそうです（執筆：2月）。それでは、101期の学生会の活動内容を振り返ることにします。

学生会担当幹事には谷垣先生（大阪電気通信大学）、田中先生（兵庫県立大学）、東森先生（大阪大学\_\_工）と私、役員校の委員長校に関西大学、副委員長校（庶務担当とメカライフの世界展の担当）に同志社大学と大阪工業大学、会計校に京都工芸繊維大学、書記校に兵庫県立大学の布陣で運営委員会、上半期・下半期総会、メカボケーション協賛企業との意見交換会、講演会、見学会、シニア会との交流会、メカライフの世界展、企業技術発表会、卒業研究発表講演会などを前年度の流れを踏襲しながら進めました。

○4月（第1回運営委員会・上半期総会）：卒業研究発表講演会後の慌ただしくて短い準備期間にも関わらず、委員長校（曾我部君・田中君・守田君）の協力で開催できました。この委員会では、シニア会主催の「親子の理科工作教室」の学生支援者を募ります。支援者人数を充足できるか心配していたのですが、積極的に志願してくれたので助かりました。また、大阪市立大学と大阪府立大学の両校は2025年3月末まで幹事校として活動して頂いたのですが、2025年4月からは規約の第4条により大阪公立大学として活動して頂くことが確認され、幹事校・委員校は26校から25校となりました。

○6月（第2回運営委員会・メカボケーション協賛企業との意見交換会）：副委員長校（庶務担当：神谷君・佐藤君・野口君）から見学会について下記の実施案が提案され、了承されました。

「Expo 2025大阪・関西万博」で「未来への希望・展望」を肌で感じ取り、例年の工場見学では得られない学びや経験を記した見聞録を提出する。

参加費は関西支部の「共創プロジェクト資金」から支出して頂きました。支部長・常務幹事をはじめとする幹事の皆様、本件をお認め頂き、ありがとうございました。委員会後の「協賛企業との意見交換会」では、59社94名の協賛企業の方と86名の学生との懇談会が開催され、意見交換が行われた。

○7月（第3回運営委員会・第183回講演会：オンライン開催）：委員会後の講演会は会計校（上野君・仁禮君・山中君）が担当し、京都工芸繊維大学の山川勝史先生から「デジタルフライングカーによる空クル動的シミュレーション」の御講演があり、新しい視点での流れの解析についてわかり易く解説して頂く講演会となりました。会計校には委員会をはじめとする種々の行事での繁雑な会計処理を1年間担当して貰い、感謝いたします。

○9月（第4回運営委員会・第184回講演会：オンライン開催）：委員会後の講演会は書記校（石崎君・岸田君・古志君）が担当し、兵庫県立大学の比嘉昌先生から「医療分野における機械工学の仕事」の御講演があり、医療分野への機械工学の取り組みについてわかり易く解説して頂く講演会となりました。書記校には1年間の委員会の議事録を作成して貰い、感謝いたします。

○10月（第5回運営委員会・下半期総会・シニア会と学生会との交流会）：委員会・下半期総会後の交流会のテーマは「機械系技術者の生き甲斐」で、斎藤様からの「哲学的技術論と設計」の御講演後、シニア会と学生会からテーマに関する提言のちグループに分かれての議論が行われました。運営委員の参加者が少なかったのですが、発言機会が増えて活発な議論が行われました。

○11月（第6回運営委員会・メカライフの世界展）：委員会はバンドー神戸青少年科学館での「メカライフの世界」展の準備前に行われた。同イベントは副委員長校（メカライフ担当：奥村君・塩谷君）の指揮の下で無事に開催することができました。期間中に小・中校の音楽会と神戸マラソンが開催されていたので来場者数が心配でしたが、800名を越える子供達と保護者の方に楽しんで貰えました。

○12月（第7回運営委員会）：3月の卒業研究発表講演会（処：大阪電気通信大学\_\_寝屋川キャンパス）の実施について議論されました。

○3月（第8回運営委員会）：卒業研究発表講演会の前日準備が行われた（予定）。

運営委員の皆さん、お疲れ様でした。そして、御協力頂きありがとうございました。学生会での活動で得た経験が糧となって御活躍されることを期待しています。また、今期の活動をサポートして貰った前期の運営委員に御礼申し上げます。

最後になりましたが、学生会の活動に御理解と御協力を頂いた川崎支部長、黒瀬常務幹事、学生会担当幹事、顧問・副顧問の先生方をはじめとする支部幹事の皆様、村上様をはじめとする事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

以上